

《特選》

自分らしさを尊重し合える
社会に

彦根中学校 三年

相田 あいだ 紗代 さよ さん

私は人権学習を通して、自分の人権感覚の軸になっていた「当たり前」を考え直さないといけないと感じました。

特に性別についてです。性別と聞くと男性か女性の二種類だと考えていましたが、講演に来てくださった方が「性はグラデーション」とおっしゃっていて、性は人によって様々だと思いました。

グラデーションである性には、二種類で分けきれないものがあります。しかし、社会を見てみると性別が二種類で分けられている場面が見られま

す。
例えばトイレの標識やアン

ケートの性別選択です。今までは何も意識していなかったが、二種類に分けられたものに悩み続ける方々もいることが分かりました。最近では多目的トイレが増えていたり、性別選択のわくがなくなっていたり、「その他」と選択肢が増えていたり、性は二種類ではないことを社会全体で広めていこうという考えがあり、そのような考え方を広めていくことで自分らしさを大切にできる人が多くなる

と、誰もが暮らしやすい社会になると思いました。
しかし、性の多様性によって新たな問題も生まれると考えます。それは今まで男性と女性の二種類で分けられていたことを時代に合わせて変えるべきかという問題です。性の多様性を重視しすぎてしまふと、今まで守られてきたものを守りきれなくなることもあると思います。
現在、彦根中学校では体育

大会でマスゲームが行われており、男女で持つ布の色が分けられています。「性の多様性」の面から見ると男女で分けられていることに違和感を覚え

ますが、守られてきた「伝統」という面から見ると変えにくいものだと思います。
だから、今後は様々な面から、いろんな立場になつて物事を考えていく必要があると思

いました。
「性の多様性」が大切な考え方となつている今、私たちにできることは「当たり前」を見直すことだと思います。

「男性だから」「女性らしい」このような言葉を普段よく耳にしますが、何気ない一言や固定観念に縛られて苦しむ人が身の周りにもいるかもしれ

ません。だから発言や行動に注意していきたいです。
また、性的マイノリティの方は特別な存在ではなく、グラデーションのどこかに当てはまる個性で、誰にでもグラ

デーションに当てはまるところがあると思つたので、「性の多様性」に関係がない人はいないと思ひました。

今回の人権学習を通して、自分や社会の中にある「当たり前」を疑いながら人権問題と向き合っていくことが「自分らしさ」を尊重し合うま

ちにするために必要だと思ひました。
互いを尊重し合いながら様々な立場で物事を考え、誰もが過ごしやすいまちにしていきたいです。

《選評》

「性別選択と性の多様性」について、深く考えていて、感心しました。性はグラデーションと言われますが、まだまだ社会の中では、男性と女性の二つで区別されていることが多く、男性であっても女性であっても個人が認識する性や性的指向は多様であることなどをよく学習して書かれているよい作文です。